

令和7年度 SSH 探究成果発表会

特集号

発表会の通称：Nagata Astra Quest

これまで、本校2年生の探究の発表会は、一般クラスの「総合的な探究の時間」、類型クラスの「探究」で別々に実施されてきましたが、今年度は1日にまとめて実施しました。変更した主な目的は3つあり、長田高校全体での探究活動を盛り上げるきっかけにすること、類型クラスだけでなく一般クラスの優れた取組を1年生に見学させ探究活動で目指すべきゴールを示すこと、海外研修の取組を全校生徒に発信すること、です。発表会の通称を Nagata Astra Quest (ナガタ アストラ クエスト) とすることで、SSH 探究発表会が一つの学校イベントとして、生徒や保護者、他校に認知され、長田高校の探究がより充実し楽しいものになることを期待しています。



日時：2026年3月6日(金)

会場：本校体育館、305～309 教室、講堂

日程：9:15～11:00 ポスター発表・オーラル発表

11:45～14:00 代表オーラル発表

助言者：播磨尚朝先生（神戸大）、伊藤真之先生（神戸大）、石井敬子先生（名古屋大）、川崎志慧先生（株式会社村田製作所）、安岡久志先生（神戸薬科大）、小西邦和先生（にしわき経緯度地球科学館）、木村智志先生（九州工業大）

来場者：2年生 320 名、1年生 320 名

保護者、卒業生アドバイザー、学校関係者

計 100 名

午前の部・ポスター発表

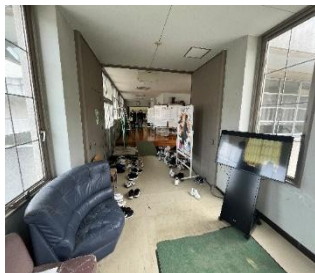
2 年生 61 班、1 年生 2 班が体育館に一堂に集まり、ポスター発表を行いました。昨年度までは校内の教室や講堂等に分散して実施してきましたが、今年度は大きく実施形態を変更しての実施となりました。

広い場所で多くの探究発表を一気に見学できる効率性の良さや規模の大きさによる盛り上がりが増した結果となりました。一方で、時間の余裕の無さや人が密集していることによる発表の聞きづらさも指摘する声もございましたので、次年度の改善に活かしたいと考えております。

2 年 1～7 組の生徒にとっては、1 年間取り組んできた「総合的な探究の時間」の最終成果発表となりました。1 学期の研究計画発表会、2 学期の中間発表会とこれまで 2 回の発表機会がありましたが、過去の経験を磨き上げてきちんと聴衆に伝える意識を持って発表に臨んでいただけたように感じます。たくさんの方々に発表を聴講してもらうのは今回が初めてという生徒も多かったのではないのでしょうか？会場の雰囲気、緊張感やプレゼンの難しさ、面白さを実感してもらえれば、今後の人生においても有効活用できる場面はいずれ訪れることかと思えます。1 年間の探究活動、お疲れ様でした。

80 回生の皆さんは今回の発表会を記憶に残し、最終形をイメージして 1 年間の探究活動に「楽しく」取り組まれることを期待します。

最後に、今回体育館でのポスター発表会の運営に携わっていただいた先生方や生徒の皆さん、当日ご来場いただきました皆様のご理解・ご協力の下、無事終えられたことに改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

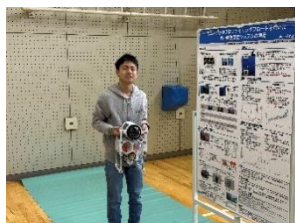


1年生特色類型 探究 1年生による発表

2年生一般クラスの発表に加わる形で、1年生を代表して2名がポスター発表を行いました。これまでは類型クラス内での発表が中心でしたが、今回は1・2年生を含む多くの聴衆に囲まれ、緊張しながらも堂々と発表している様子が印象的でした。また、代表以外の生徒も2年生の多様な発表を聞くことで、自身の探究を見つめ直すきっかけとなり、2年次からの探究活動への意欲を高める刺激となったようです。

<生徒活動ログより>

・それぞれに問いを解明するために工夫を凝らして実験をしていて、無理だと諦めずに他の方法を考え続けることが重要だと感じました。自分のテーマに関して深い理解を持っていて、先行研究を読み込まないといけないと思いました。特に代表発表は探究の目的が明確で一貫性があり、自分のものは何を目指しているのかあやふやでよく分からないので、はっきりと定めたいと思いました。



午後の部：講堂でのオーラル発表

午後からは講堂で代表班のオーラル発表を実施しました。2年生の探究班から一般2班、類型3班が選抜され、講堂で1年生と保護者、外部来場者、指導助言者の前で発表を行いました。また、本校が実施する海外研修（台湾、シンガポール）の研修実施報告も英語で行いました。

プログラムは以下のとおりです。

編集後記

今年度の国際理解講演会は、公益財団法人中谷財団の「神戸賞」Young Investigator 賞受賞者のアウトリーチ活動の一環として財団から長田高校に打診いただき実現したものでした。SSH事業を中心に理数系人材の育成に取り組む本校にとって、国際的に活躍する科学者の研究に触れることは非常に意義深いものでした。講演後のサイエンスカフェも非常に充実した時間を過ごすことができました。今後の講演会の企画立案にも活かしてまいります。

※講演会の模様は、中谷財団のwebサイトでも公開されています。

https://www.kobe-prize.jp/news/yachie_outreach/